

# 安全で安心な 放射線検査のために

医療被ばく低減施設として  
県内の施設で3番目に認定



放射線科 入江浩行技師長

## 誰もが受ける放射線検査

「放射線検査はほとんどの人が経験します。市立川西病院では、胸部撮影などのレントゲン検査の他に、乳がん検診に利用するマンモグラフィや胃腸のバリウム検査などに使うX線テレビ装置、体の断面を撮影するX線CT装置などがあります」

そう話すのは入江浩行さん。同病院で放射線科の技師長を務めています。

「放射線検査で撮影を行うと、わずかですが被ばくします。被ばくという言葉で深刻な状態を想像する人もいるかもしれませんが、通常の撮影で健康被害が出ることはまずありません」

## 安心できる 放射線検査を提供

原子力発電所の事故をきっかけに、検査での医療被ばくを気に掛ける人が増えていると入江さん。

「放射線量を多くすれば、良質な画像が得られます。しかし、私たちは技師のスキルアップや最新設備の導入で、同じかそれ以上の効果を得る



ことをめざしました。また、客観的な評価として医療被ばく低減施設の認定を受けることで、安心して受診してもらおうと考えたんです」

## 患者ごとに 最適な方法を選択

希望すれば放射線検査の履歴と医療被ばく線量を確認できると入江さんは話します。

「放射線に対する不安を抱えながら受診している人や、本来必要なのに受診に踏み切れない人がいます。そういう人を一人でも減らしたいんです。患者さん一人一人の状態に合わせて最適な放射線検査を実施しているので、安心して受診してください」

## おとな子どもも 食と育つ

保健センター  
☎(758)4721

レシピ 市学校栄養担当者会

- 材料 4人分
- レンコン …………… 小1節(約180g)
- ひき肉 …………… 90g
- ショウガ …………… 少々
- サラダ油 …………… 小さじ1/3
- しょうゆ …………… 小さじ2
- 砂糖 …………… 大さじ1
- みりん …………… 小さじ1/2

熱量(おとな1人分): 97kcal、塩分: 0.5g

- 作り方
  - ①皮をむいたレンコンを薄切りにして水にさらす。
  - ②ショウガはみじん切りにする。
  - ③フライパンでサラダ油を熱し、ショウガを炒めて香りがたったら、ひき肉とレンコンを炒める。
  - ④しょうゆと砂糖、みりんを加え、汁気がなくなるまで煮からめる。
- 【ポイント】  
レンコンの切り方や大きさを、いろいろな食感が楽しめます。



## れんこんのきんぴら

旬のレンコンとひき肉の食感を楽しむ一品

## 人権啓発シリーズ

生きる 人権推進課 ☎(740)1150

## 学校で身につけた力の使い方

成績や学歴に換えるのが目的ではなく  
自分の世界を広げるために使うべき

学校は、子どもたちがこの世の中を生きるのに必要な力を身につける場所だと思われています。もちろん、それはその通りです。力を身につけるといことは、身につけた力を使って生きるといこと。文字の読み書きの力を身につければ、それまで謎の模様でしかなかったものが意味を持って見えてきます。今は身の回りに文字情報があふれていますから、読み書きができるようになれば、一気に世界が広がります。ですから、子どもたちもまた読み書きができるようになることを素朴に喜びます。力を身につけるといのは、身につけた力を使って世界が広がることなのです。

ところが、今の学校では「将来必要な力を身につける」ことをスローガンに、その力をちゃんと身につけたかどうかを試すために試験を繰り返します。そうすると、力を身につけるのは、それを試験で使って成績を上げるためだということになりがちです。現に、その成績が将来の学歴や学校歴につながることで、子どもの将来が保証されるのだと多くの親が思い、やがて子ども自身もそう思い込んでしまう。しかし、そうなるのであれば、身につけた力を使うことの意味が変質してしまいます。身につけた力が成績になり、学歴や学校歴に換えられれば用済みで、後はその力がそげ落ちて大丈夫。そんなふうになってしまいます。

学校での学びがそんなものになれば、身につけた力を日々の生活に使って世界を広げるという、「学び」の本質が見失われるでしょう。多くの子どもたちにとって学校が苦しい場になってしまうのも当然かもしれません。

(前川西市子どもの人権オンブズパーソン 浜田寿美男)

## 消費生活センターだより

消費生活センター  
☎(740)1167

## 見守りと気付きで解約へ

見慣れない業者と的高額契約  
近隣住民からの相談で早期解決

「近所のマンションに業者が来て、住民の何人かが高額な商品を契約したようだ」と自治会役員から消費生活センターに相談が入りました。この相談がきっかけで契約した人全員がクーリング・オフをして商品は返品、払ったお金は全額返金された事例です。

事例 朝、マンションのインターホンを数人の男性が押して回った。「近くで店をオープンします。景品をお配りしています」と呼びに来た。一緒に行くと、エントランスには住民が集まっていた。景品を渡された後、部屋に案内され「今日は商品の案内だけです」と言われた。いろいろな商品の説明があり「欲しい人！」と聞かれて、手を挙げるとプレゼントされた。最後に鉱石を練りこんだという布団の説明があり、使うと体の痛みが和らぐと言われた。「欲しい人！」と言われたので手を挙げたら、男性が側に付いて申込書に住所と氏名を書くように言われた。その後、「布団は30万円だが今日は25万円にする」と言われた。買う羽目になって困ったと思ったが、「商品は重いのでお持ちします」と言って男性が部屋までついてきたので、仕方なく書類に印鑑を押し、お金をあるだけ渡した。こんな高いものを買うつもりはなかったが、仕方がないと諦めていた。(80歳代 女性)

身近な人からの相談で早期解決ができ、見守りと気付きが大切だと感じた相談でした。皆さんの周りで友達や家族などが、「何かいつもと違う様子だな」「困った感じがするな」と気付いたら、すぐに消費生活センターに相談してください。

市政情報

求人・募集

発表・鑑賞

公民館

カレンダー

セミナー

スポーツ

健康

相談の案内

高齢者

子育て

ニュース